

プログラム名 (40字以内)	韓国社会とメディア～報道現場を訪れて日韓共通課題を知る実践的体験と現地学生交流～		
団体名/所属	教養学部 鄭孝俊		
活動区分	国際交流体験活動 フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	5人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	マスコミへの就職や日韓の未来志向を真摯に考えている学生を求める。韓国語学習歴がある方が望ましいが、必須ではない。		
活動期間	2026/9月中旬、5日間	主な活動予定場所	ソウル市内の複数のメディア企業、世宗市庁舎、国立中央博物館など（※受け入れ先の事情で変更あり）
プログラム実施の目的	昨年、1965年の日韓国交正常化から60周年を迎えた。本プログラムは主に現地メディアと政府機関の移転地を訪れて日韓に共通する課題を学び、問題解決に向けた実践的思考法を養うことで未来志向の日韓関係に貢献できる人材の育成に繋げたい。深刻化する少子高齢化、人口の首都圏集中、ジェンダーギャップ、拡大する経済格差、大学教育、移民対策、多文化共生など日韓には多くの共通課題がある。現地での視察、交流、ワークショップを通して世界の現実を知り個々の問題意識を高めていくことを目標とする。1年生の方々も積極的に応募してください。		
具体的な内容(800字程度)	<p>1. 韓国の京郷新聞社訪問 元東京特派員の論説室長レクチャー。言語は日本語。韓国の外交、安保、少子化、移民政策、AI、科学技術、日韓関係の在り方について直接説明を受け、質疑応答を通じて政策の背景にある課題を理解する。終了後は食事を開催予定</p> <p>2. 韓国の大学理解と大学生との交流 国立のソウル大学(あるいはその他の大学)を訪れ韓国の若者が抱く受験競争や少子化、就職に対する意識、移民受け入れの考え方について意見交換を行い日本と比較しながら多様な視点を得る。また、ベンチャー分野に特化した学びを提供する湖西大学の招聘教授から韓国における地方大学の現状と課題について意見交換する。この教授は京郷新聞社の元東京特派員を務めており日韓事情に詳しい。鳥取県の若狭鉄道集駅の各営業長にも就任しているため日韓を架橋する観光ビジネスのアイデアについてフィードバックをもらう。言語は日本語</p> <p>3. 首都圏への人口集中対策と政府機能移転の現場を視察 ソウル首都圏の諸機能分散と人口の過度の集中解消などを目的にソウルの南東約120km、国のほぼ中央に位置する世宗市に中央政府機関などを分散移転させる事業が進行中だ。現在、教育部、文化体育観光部など10以上の機関が移転し2028年には国会議事堂や大統領執務室も移転予定。現地では世宗市庁舎を訪問し(ソウルから高速鉄道とバスで1時間余)、行政トップの市長からのレクを受けることで日本の課題を再確認する</p> <p>4. 日本メディアが見た日韓の課題 NHK、TBS、毎日新聞の各ソウル支局を訪問。特派員の目から見た日韓の課題を改めて知り、参加者の問題意識を高める。また、SNSの氾濫による人権侵害が相次ぐ中、特派員という仕事のやりがいや苦労、そして報道とは何かについて突っ込んだ学びを目指す</p> <p>5. 実践型ワークショップ:「日韓の政策比較と提言」 韓国滞在中の学びを基に、日韓に共通する課題と違いを整理し学生同士でワークショップを実施。最終日に成果を発表することで実践的な思考力を養う</p> <p>6. コンテンツツーリズムの現地体験 ソウル有数の先連観光スポットに変貌している聖水駅周辺からCUBEエンターテインメント、SMエンターテインメントの各社屋、国立中央博物館をたどるツアーを通して韓国カルチャーのマーケティングパワーを学ぶ</p> <p>7. 日本大使館を表敬訪問し学生向けプログラムに参加することで日韓比較文化論を学ぶ</p>		
【総額】参加するための費用	合計約80,000円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	部屋のタイプにより予算は変動。計2～3万円。		
【内訳】参加するための費用(交通費)	LCC利用で往復3～4万円。		
【内訳】参加するための費用(その他)	食費や懇親会費と日用品で約20,000円。		
奨励金額(予定)	40,000円		
備考	<p>【集合・移動について】 航空券の価格は、為替レートや燃油サーチャージ等により変動します。 本プログラムは原則として現地集合・現地解散となるため、出発地および次の目的地については、参加者各自で判断してください。</p> <p>【宿泊について】 宿泊施設は、ビジネスホテルの個室からゲストハウスのドミトリまで選択肢があります。 宿泊先は参加者各自で決定可能ですが、体験活動プログラムの日程上、各日の集合場所に近いエリアでの宿泊を推奨します。</p> <p>【現地訪問時の注意】 KBS、YTNなどの韓国大手マスコミ各社や、日本メディアのソウル支局訪問は、一般には得難い貴重な機会となります。 情報管理については、現地での指示を必ず遵守してください。</p> <p>【語学要件】 ソウル大学での交流会は、学習プログラムに沿って英語で約3時間実施予定です。 通訳はつきませんので、一定の英語でのコミュニケーション能力が求められます。</p> <p>【生活面(食事等)】 現地の物価、特に食費は高めです。 そのため、KBS社員食堂やソウル大学の学生食堂等を適宜利用する予定です。 公共交通機関での移動が多くなるため、体調管理には十分留意してください。</p> <p>【事前準備】 現地プログラム実施前に、大学構内(駒場または本郷)にて、参加者向けの事前レクチャーおよび懇談会を数回実施予定です。</p>		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	移民と多文化共生をテーマにした京郷新聞10回連載の第1回記事(原文韓国語) https://www.khan.co.kr/article/202203230600005		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体の参加の有無)	参加する		